



『鉄道会社VS地方自治体～データが突き付ける存続限界』

地方鉄道

鐵坊主【著】/河出書房新社（2024/1）



苦境に立つ鉄道各社と、廃線を回避したい沿線自治体と、それぞれの立場でどのような策を講じるべきか？ 各社の新線・新駅計画から見えてくる、鉄道ばかりに頼らないまちづくりとは？「地方の鉄道と経済」の現在と未来を明らかにする1冊！

『あっぱれ！日本の新発明～世界を変えるイノベーション』

イノベーション

ブルーバックス探検隊【著】/講談社（2024/1）



日本の「ものづくり」は生きている！「冷やすメカニズム」を根底から覆す冷蔵庫、意外な魚のおかげで完成した高温でもさわられるレンガなど、企業秘密レベルの熱いイノベーションとそれを成し遂げた誇るべき研究者たちの素顔に探検隊が迫る。

『教養としての「行政法」入門』

法律

服部真和【著】/日本実業之出版社（2024/1）



美しい風景や街並みは誰のもの？ 学校教育格差が都道府県ごとに生じるのはなぜ？ 日本の法律の9割を占め、身近な生活に影響を与える行政法（道交法・都市計画法・食品衛生法など）を、理論や条文からではないアプローチでわかりやすく解説！

『選挙、誰に入れる？～ちょっとでも良い未来を「選ぶ」ために知っておきたいこと』

選挙

宇野重規【著】/Gakken（2024/2）



日本の消費税は高い？ 働く時間は長い？ 結婚制度に違いはあるの？ データで世界と比べてみると、日本の政治がよくわかる！ より良い未来を「選ぶ」ために、これから主権者になるすべての人に贈る本。もっと気軽に「選挙」を語ろう！

『自治を担う「フォーラム」としての議会』

自治体議会

江藤俊昭【著】/イマジン出版（2023/12）



民主主義の砦として、「自治体議会」は議員の質問力を磨き、政策実現への道筋を議会全体で切り拓くことが問われている。本書はこれに応え、質問・質疑から政策を議会全体で創り実現する方策、仕組みを実践する事例を紹介。今できる改革に希望を灯す！

『ガザとは何か～パレスチナを知るための緊急講義』

国際問題

岡真理【著】/大和書房（2023/12）



ガザで、何が、なぜ起きているのか？ 長年パレスチナ問題に取り組んできた著者が、歴史的な文脈とポイントをわかりやすく解説。今を知るための最良の案内であり、「これから私たちは何を学び、何をすべきか」を知る足掛かりともなる書。

『ライフステージを通しての「医療的ケア」～「医療的ケア児支援法」の成立を受けて、現場の声を聞く！』

医療的ケア

荒木 敦・NPO法人医療的ケアネット【編著】/クリエイツかもがわ（2024/2）



「医療的ケア」とは何か？ 歴史から紐解き、就学前・学童期・学校卒業後に至るライフステージごとの問題点と課題を明らかにする。「切れ目なく行われる支援」「地域に関わらず等しく適切な支援が受けられる施策」を実現するために何をすべきか？

『30年でこんなに変わった！47都道府県の平成と令和』

現代日本史

内田宗治【著】/実業之日本社（2024/1）



80～90年代に習った「日本の姿」と2020年代の「日本の姿」は全然違う！ この30年で、静かに激変している日本を県別に細かく解説する47都道府県本。各都道府県の姿を比較し、地域の産業・観光・歴史記述などがどう変わったのか紹介する。

『まちで生きる、まちが変わる～つくば自立生活センターほにやらの挑戦』

障害者支援

柴田大輔【著】/夕書房（2024/2）



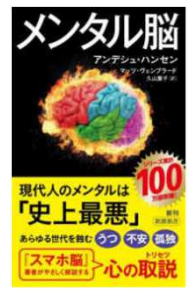
「いつ、どこで、誰と、何をするか」、障害重度に関わらず自分で決定する生活を実現する、当事者団体「つくば自立生活センターほにやら」。彼らの20年以上にわたるインクルーシブな社会への挑戦をたどる。「助けられる存在」から「まちづくりの主人公」へ！

トピックス：「脳」に関する書籍

新着

『メンタル脳』

アンデシュ=ハンセン・マッツ=ヴェンブラード
【著】/新潮社 (2024/1)



なぜ人は不安になるのか？
なぜ孤独とSNSがメンタルを
むしばむのか？ 脳科学の視点からメンタルの問題を解説したベストセラー「ストレス脳」を、あらゆる世代向けにわかりやすく、コンパクトにした「心の取説」！

『スマホ脳』

アンデシュ=ハンセン【著】/新潮社 (2020/11)



IT業界トップが、わが子にデジタル・デバイスを与えなかった理由とは？ 最新研究が明らかにする、スマホの便利さに溺れ、脳がむしばまれていく現実を探る。「メンタル脳」同著者による世界的ベストセラー！

『オンライン脳』

～東北大学の緊急実験からわかった危険な大問題！

川島隆太【著】/アスコム (2022/8)



通信回線を使った「オンラインコミュニケーション」が、人間の脳に与える悪影響について解説。脳の発達不全、集中力低下、学力低下、うつ病などに繋がる危険性について言及している。

『脳の闇』

中野信子【著】/新潮社 (2023/2)



集団の中で、人は常に「承認欲求」と無縁ではられない。曖昧で不安な状態を嫌う脳の仕組みは、深淵にして実に厄介。現代社会の病理と私たち人間の脳に備わる深い闇を鮮やかに解き明かす、衝撃の人間論！



図書広報委員がおすすめする一冊

『フランクリン自伝』



紹介者：齊藤 優 委員長
自由民主党・伊勢崎市選出・2期

12歳で社会に出て以来、徒手空拳で自己研鑽に励み、晩年にはアメリカ独立宣言の起草委員の一人となったベンジャミン・フランクリンは、現実的なセルフメイドマンであり、至高のジェネラリストでした。発展途上にある若いアメリカで縦横に活躍した彼は、「時は金なり」「点滴、石をうがが」「神は自ら助くる者を助く」などの、数々の格言を残しました。

かのイーロン・マスクは、フランクリンが創設したペンシルバニア大学の卒業生であり、フランクリンを絶賛していることが知られています。

浅薄で功利的なプラグマティストと忌避されてしまう憾みもありますが、節制と勤勉を旨として常に快適さや実利、成功を求めて前進しようとする真摯な姿勢には、やはり大いに学ぶべきものがあります。

この本を読むと、「進歩がまだ希望であった頃」の妙味を感じることができます(それが幻影であったとしても)。

📖 R5年度図書広報委員（10名）最後のおすすめとなります！